

Ⅲ 手話通訳のあり方

1 日本手話通訳士協会が定めた「手話通訳士倫理綱領」に基づく手話通訳士のあり方として**不適切な**ものの組合せを、下の中から一つ選びなさい。

- ア. インターネットに聴覚障害者が投稿している動画を見て、手話の勉強をした。
- イ. 近ごろ姿を見ない聴覚障害者のことを心配している手話通訳者がいた。先日、その聴覚障害者の通訳を担当したので元気なことを知っていたが、そのことを伝えなかった。
- ウ. 事前にもらった講演会の資料に女性蔑視の発言が多くあったので、派遣元に相談せず、講演者に言い方を変えてほしいとお願いした。
- エ. 後輩の育成のため、実際に行った通訳の内容や内部事情などの詳細をSNSに発信した。

- 1. ア・ウ
- 2. ア・エ
- 3. イ・ウ
- 4. ウ・エ

2 次の文の（ ）にあてはまる語を、下の中から一つ選びなさい。

「^{けい}頸肩腕障害」について相談したい場合、症状に対する質問や、受診可能な医療機関、労災申請の方法などについて問合せできる窓口は（ ）と呼ばれる。

- 1. 「救急けいわん」
- 2. 「けいわんヘルプ」
- 3. 「けいわん110番」
- 4. 「ストップけいわん」

3 脳科学の分野から見た、音声言語と手話に関する記述として正しいものを、下の中から一つ選びなさい。

1. 生まれてまもなく聴力を失うことは、言語の獲得を極めて困難にする。
2. 音声言語では脳の損傷により失語症が生じるが、視覚言語である手話の場合は、脳の損傷による失語症の発症率は極めて少ない。
3. 音声言語を理解したり、生成したりすることは、主に脳の左半球が行っている。
4. 言語理解における脳の活動は、音声言語と手話では大きく異なる。

4 次の文章の（ ）にあてはまる語の組合せとして正しいものを、下の中から一つ選びなさい。

聞こえる子どもが自然に日本語を話せるようになる過程と同様に、ろう者の親のもとに生まれたろう児には手話の言語獲得の前段階で手話の（ア）がみられる。その後、リズムや長さが手話と同じで意味のない言葉を使う時期を経て、（イ）が現れる。

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. ア：ジャーゴン | イ：喃語 ^{なん} |
| 2. ア：初語 | イ：ジャーゴン |
| 3. ア：初語 | イ：喃語 |
| 4. ア：喃語 | イ：初語 |

5

日本手話に関する記述として誤っているものを、下の中から一つ選びなさい。

1. 日本語の「母が」や「父を」などで使う格助詞「が」や「を」は、指文字を使用する。
2. 主語を明確にし、動作や状態を強調する際には、指さしが効果的に使われる。
3. 話者が立つ位置での動きで「現在」、後方に向けた動きで「過去」、前方に向けた動きで「未来」を表す。
4. 相手と対面している場面では、日本語と同様に主語の「あなた」は省略することがある。

6

次の文章の（ ）にあてはまる語を、下の中から一つ選びなさい。

日本手話の動詞には、「説明する」や「教える」など、主語や目的語によって語形を変える動詞がある。これを（ ）と呼ぶ。

1. 一致動詞
2. 強変化動詞
3. 空間動詞
4. 弱変化動詞

7 日本手話におけるミニマル・ペア (minimal pair) として最も適切なものを、
下の中から一つ選びなさい。

1. 「兄」と「妹」
2. 「外国」と「苦しい」
3. 「黄色」と「なるほど」
4. 「砂糖」と「若い」

8 バッチソン (Robbin Battison) は両手を使う手話の手型・位置・動きの
組合せに関する条件の一つを次のように述べている。この条件にあてはまる
日本手話の語を、下の中から一つ選びなさい。

両手が動くならば、両手は同一の位置、同一の手型、同一の動き（同時または交互の動き）でなければならない。また両手の^{てのひら}掌の向きは、対称または同じ向きでなければならない。

1. 「コンビニ」
2. 「手話」
3. 「方法」
4. 「目的」

9

次の文の（ ）にあてはまる語を、下の中から一つ選びなさい。

自分の属する民族、人種の文化を基準として他の文化を否定的に判断したり、低く評価したりする態度や思想のことを（ ）という。

1. エスノセントリズム (ethnocentrism)
2. バイオリズム (biorhythm)
3. ポピュリズム (populism)
4. マルチカルチュラリズム (multiculturalism)

10

コミュニケーションに際して、共有されている体験や感覚、価値観などが多い文化のことを高コンテキスト文化という。高コンテキスト文化の特徴を表す表現としてあてはまらないものを、下の中から一つ選びなさい。

1. 以心伝心
2. 紳士協定
3. 不文律
4. 明文化

11 次の文は通訳モデルに関する記述である。()にあてまはる語句の組合せを、下の中から一つ選びなさい。

手話通訳者のパーソナリティや直感が通訳表現に影響を与えることを(ア)モデルと呼び、家族・友人等が無償で手助けとして手話通訳を行うことを(イ)モデルと呼ぶ。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. ア：二言語・二文化専門家 | イ：コミュニケーション促進 |
| 2. ア：二言語・二文化専門家 | イ：相互作用 |
| 3. ア：認知 | イ：水路 |
| 4. ア：認知 | イ：ヘルパー |

12 次の文の()にあてはまる語を、下の中から一つ選びなさい。

行政通訳の現場において、通訳者がソーシャルワーカーのような機能を果たしながら、通訳利用者の問題が解決にいたるまでの一連のプロセスに携わる通訳形態を()支援と呼ぶ。

1. 加速的
2. 後見的
3. 伴走型
4. プッシュ型

13 コミュニティー通訳に関する記述として最も適切なものを、下の中から一つ選びなさい。

1. 医療通訳では、家族など身内による通訳は避けるべきである。
2. 行政現場の通訳において、通訳者も自身の名前を積極的に名乗るべきである。
3. 生活支援の場面などでは、必要に応じて、私的なアドバイスを行うべきである。
4. 取り調べ通訳では、民間の通訳人であっても捜査側の一員として振る舞うべきである。

14 次の文の（ ）にあてはまる語を、下の中から一つ選びなさい。

通訳訓練の一環として、新聞記事など硬い書き言葉を聞き手にわかりやすい話し言葉にする練習を（ ）と呼ぶ。

1. オーラリゼーション (oralization)
2. シャドーイング (shadowing)
3. リテンション (retention)
4. リプロダクション (reproduction)

15 オンライン配信される会議や講演会などで、手話の「画面通訳」をする際に注意すべき点について、**正しくないもの**を、下の中から一つ選びなさい。

1. 手話の動作が画面からはみ出ないように心がける。
2. 指文字、数字、アルファベットなどは、画面上見やすい表現を心がける。
3. 手話を表出する時の視線は、カメラ目線で固定する。
4. 画面に映っている資料などを通訳に活用することができる。

16 次の文章は、2022(令和4)年の「手話言語の国際デー」のイベントで手話通訳をした際の通訳技法に関する記述である。()にあてはまる最も適切なものの組合せを、下の中から一つ選びなさい。

ランドマークや公共施設を(ア)色でライトアップするよう呼びかけているイベントであるという説明の後、「ライトアップ」という言葉が頻繁に出てきた。大きな会場での通訳でもあることから、(イ)と表出した。

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. ア：桃（ピンク） | イ：「桃」「表す」 |
| 2. ア：桃（ピンク） | イ：指文字で「ライトアップ」 |
| 3. ア：青 | イ：「青」「表す」 |
| 4. ア：青 | イ：指文字で「ライトアップ」 |

17 公共インフラとしての電話リレーサービスにより、オペレータを介して聴覚障害者・発話困難者など（以下、利用者）との電話連絡が可能になった。このサービスに関する記述として**正しくない**ものを、下の中から一つ選びなさい。

1. 24時間・365日利用が可能であり、緊急通報機関への連絡もできる。
2. 仕事で関係先へ電話することはできないが、家族や友人などへは電話することができる。
3. 利用者に付与された番号を知っていれば、聞こえる人から利用者に電話で連絡することができる。
4. 利用者が店舗などに電話で連絡した場合、店舗は着信履歴から折り返し利用者に連絡することができる。

18 令和元(2019)年12月、社会福祉法人聴力障害者情報文化センターにより、「手話通訳士実態調査報告書」がまとめられた。手話通訳士以外に取得している医療・福祉分野の資格で最も多かったものを、下の中から一つ選びなさい。

1. 介護支援専門員
2. 看護師
3. 保育士
4. ホームヘルパー

19 性的マイノリティ、難民、難病患者、障害者などの当事者を招き、少人数の対話形式で話を直接聞く活動はどれか、最も適切なものを、下の中から一つ選びなさい。

1. オーラルヒストリー (oral history)
2. ダイバーシティ (diversity)
3. ディスコース分析 (discourse analysis)
4. ヒューマンライブラリー (human library)

20 医療サービスの利用者（患者）と提供者（医師）が、治療方針の決定に関して目標を共有し、ともに力を合わせて活動することを意味する言葉を、下の中から一つ選びなさい。

1. インフォームド・コンセント (informed consent)
2. シェアード・ディシジョン・メイキング (shared decision making)
3. セカンド・オピニオン (second opinion)
4. リビング・ウィル (living will)